

# 「古着のニーズ」22311326 出久根 慎之介

## 1.古着の歴史

- 1940年代 – 1950年代: 日本は復興の時期を迎え、物資の不足が慢性的な問題でした。この時期には古着の需要が高まり、占領軍から供給されたアメリカの軍服や民間服が広く使われました。この時代の古着は「ジャンキー服」として知られ、若者たちの間でポピュラーでした。
- 1960年代 – 1970年代: ヒッピー文化と反戦運動が広まり、古着が象徴的なファッションスタイルとして登場。この時期、古着は個性的なスタイルや自由な表現の一部となり、多くの若者が古着を好んで着用。
- 1980年代: バブル経済が隆盛し、高級なブランド服やデザイナーファッションが一般的になり、一部の若者たちは古着を再評価し、ヴィンテージファッションを愛好。この時期、古着ショップが増加し、古着ファッションが再び注目を浴びました。
- 2000年代以降現代: 古着ファッションは依然として人気があり、多くの若者やファッション愛好者に支持され、古着ショップは広く存在し、特に若者の中でユニークなスタイルを追求するために古着を取り入れることが一般的。古着は環境にやさしいファッション選択としても広く認識されています。

## 2.古着の街、下北

交通の便がよく、渋谷と新宿がクロスした位置にあります。

音楽、アート、演劇といったサブカルチャーがありそういった雰囲気が街の魅力となっています。

## 3.古着の買い付け

大手古着屋: ブックオフ、セカンドストリートなどはお客様から服を安く買取り、それを値付けし売る形になります。

一般の古着屋: 海外などの市場や倉庫で買い付けし日本で約3倍で売る。

個人経営の古着屋: 私物や他の古着屋から安く値付けられたものを買って売ったりします。また、一般の古着屋同様に海外で買い付けも行います。

## 4.古着の市場

古着市場が世界的に急成長しており、2025年にはファッション全体の10分の1を占めると言われています。さらに、4年後の2028年までには3500億ドル(約54兆円)規模に達する見通しとなっています。

## 5.ecで売る古着

近年で古着がブームになっている理由の1つにECサイトがあります。おしゃれでかっこいい古着が端末からでも買える魅力は今後も重要です。店舗を立てないため土地代がいらぬのも売る側にはメリットとなります。